SARAYA

製品情報

第3類医薬品

速乾性アルコールジェル

ウィル・ステラV ジェル

目　次

1. はじめに …… 1

2. 特　徴 …… 1

3. 組成および性状 …… 1

4. 効能・効果 …… 2

5. 用法・用量 …… 2

6. ウィル・ステラVジェルのウイルス不活化効果 …… 2

6-1 各種ウイルスに対する*in vitro*における不活化効果：
DVV & RKIガイドライン(2008)

6-2 ネコカリシウイルス(FCV)に対する*in vivo*における不活化効果：
ASTM E1838-02

7. ウィル・ステラVジェルの殺菌力 …… 5

7-1 各種細菌に対する*in vitro*における殺菌力：Time-Kill試験
(ASTM E2315-03)

7-2 各種細菌に対する*in vitro*における殺菌力：prEN13727

7-3 通過菌汚染モデルに対する*in vivo*における殺菌力：EN1500:2013

8. ウィル・ステラVジェルの皮ふに及ぼす影響 …… 8

8-1 ウィル・ステラVジェルの保湿効果

8-2 ウィル・ステラVジェル使用前後の皮ふの状態

1. はじめに

2009年にWHO（世界保健機関）は、医療施設における手指衛生ガイドライン（以下、WHOガイドライン）を発表し、医療関連感染の防止にアルコールベースの速乾性手指消毒剤による手指衛生を強く推奨しました[1)]。WHOガイドラインの最大の目的は、医療従事者が適切なタイミングで正しい手指衛生を行うことと、手指衛生の遵守率を改善することにより、医療関連感染を防ぎ、患者の安全を確保することにあります。

その一方で、実用濃度のアルコールは、ある種のエンベロープを持たないウイルス（ノンエンベロープウイルス）に対しては活性が劣ることが指摘されており[1)]、そのようなウイルスに対する接触感染の予防対策が課題として残されていました。そこで、弊社ではノンエンベロープウイルスを含む、幅広い抗微生物スペクトルを持つ速乾性手指消毒剤としてウィル・ステラVを製品化しました。

今回開発しました**ウィル・ステラV ジェル**はウィル・ステラVをベースとして適度に増粘剤を配合したジェルタイプの製剤です。手の平からこぼれにくいよう適度な粘性を持たせ、使用感にもすぐれた製剤です。また、保湿剤も配合し、手荒れにも配慮しています。**ウィル・ステラV ジェル**は、一般細菌、真菌、エンベロープウイルスだけでなくノンエンベロープウイルスも含む幅広い微生物に対して有効な製剤であり、その有効性は国際的にも認められた欧州や米国における標準試験法において確認されています。

2. 特　　徴

- エタノールを有効成分とする速乾性のアルコールジェル製剤で、一般細菌、真菌、ウイルスなど広範囲の微生物に短時間で効果を示します。
- 手に取ったとき、手の平からこぼれにくいように適度の粘性を持たせています。
- 乾燥後にべたつかず、さらっとした良好な使用感です。
- 使用後の水洗い、あるいはふきとりの必要はありません。
- 保湿剤としてグリセリン、ミリスチン酸イソプロピル、アラントインを配合し、手荒れに配慮しています。

3. 組成および性状

成　分： 100 mL中にエタノール（C_2H_6O）76.9～81.4vol%を含有
グリセリン、疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロース、
ミリスチン酸イソプロピル、アラントイン、リン酸を含有

性　状： 無色澄明から僅かに濁りのある粘性の液体で、特異なにおいがある

4. 効能・効果

手指・皮ふの消毒

5. 用法・用量

適量を手に取り、指先までムラなく乾くまで擦り込む。

6. ウィル・ステラVジェルのウイルス不活化効果

6-1　各種ウイルスに対する *in vitro* における不活化効果[2)]：DVV&RKI ガイドライン（2008）

ウィル・ステラVジェルの各種ウイルスに対する不活化効果を*in vitro*で評価するため、ドイツの標準試験法であるDVV & RKIガイドライン（2008）[注1]に従って、試験を実施しました。DVV&RKIガイドライン（2008）ではそれぞれの指標ウイルスに対して、ウイルス感染価で4.0Log_{10}以上の減少（感染価の減少率:99.99%以上）が認められた場合、その製剤はウイルスに対して有効であると判定されます。

<試験実施施設>

a) MIKROLAB GmbH (Germany)[3)]

b) サラヤ バイオケミカル研究所 サテライトラボ

<試験方法>

タンパク質負荷条件では、**ウィル・ステラVジェル**の原液、ウシ胎仔血清、各ウイルス液を8:1:1の割合で混合し、20±1℃の水浴中で、15および30秒間作用させました。また、タンパク質を負荷しない条件では、**ウィル・ステラVジェル**の原液、滅菌蒸留水、各ウイルス液を8:1:1の割合で混合し、同様の条件で試験を行いました。作用後、各種混合溶液から0.5mLを取り、4.5mLの細胞培養培地に加えました。各種ウイルスに対応する検出用細胞に接種し、一定時間後にウイルス感染の有無を観察し、ウイルス感染価（以下、$TCID_{50}$）を測定しました。

<結　果>

結果を表1に示します。**ウィル・ステラVジェル**はタンパク質負荷の有無に関わらず、試験した全てのウイルスの$TCID_{50}$を4.0Log_{10}以上減少させました（感染価の減少率：99.99%以上）。

表1　ウィル・ステラVジェルの各種ウイルスに対する不活化効果(%)

	ウイルス	タンパク質負荷	作用時間	コントロール感染価 ($TCID_{50}$/mL)	減少率 (%)
エンベロープなし	ポリオウイルス1型 *b) Poliovirus Type 1	なし	15秒	7.5×10^{5}	>99.99
		あり	15秒	1.2×10^{6}	>99.99
	アデノウイルス5型 *a) Adenovirus Type 5 / Adenoid 75	なし	15秒	5.8×10^{7}	99.96
			30秒		>99.99
		あり	15秒	1.0×10^{8}	99.25
			30秒		>99.99
	パポバウイルス(SV 40) *a) Papovavirus SV 40	なし	15秒	2.1×10^{8}	>99.99
		あり	15秒	1.4×10^{8}	>99.99
	ネコカリシウイルス F-9 b) (ノロウイルス代替) Feline calicivirus F-9	なし	15秒	1.0×10^{7}	>99.99
		あり	15秒	1.0×10^{7}	>99.99
	マウスノロウイルス S7 b) (ノロウイルス代替) Murine norovirus S7	なし	15秒	2.4×10^{6}	>99.99
		あり	15秒	1.5×10^{6}	>99.99
エンベロープあり	ワクシニアウイルス*a) Vaccinia virus, strain Elstree	なし	15秒	4.3×10^{7}	>99.99
		あり	15秒	6.6×10^{7}	>99.99
	ウシウイルス性下痢ウイルス (HCV代替) a) Bovine viral diarrhea virus 1(BVDV)	なし	15秒	7.6×10^{6}	>99.99
		あり	15秒	4.9×10^{6}	>99.99
	インフルエンザウイルスA(H1N1)型 b) Influenzavirus Type A (H1N1)	なし	15秒	4.9×10^{6}	>99.99
		あり	15秒	1.0×10^{7}	>99.99
	ヘルペスウイルス1型 b) Herpes simplex Type1	なし	15秒	7.5×10^{6}	>99.99
		あり	15秒	4.2×10^{6}	>99.99

＊：DVV & RKIガイドライン(2008)における「Virucidal activity」の指標ウイルス
a) MIKROLAB実施,　b) サラヤ実施

注1：DVV&RKIガイドラインとは

「ドイツウイルス疾病管理協会(DVV)およびロベルト・コッホ研究所(RKI)による医療におけるウイルスに対する化学消毒剤の試験に関するガイドライン(2008)(以下、DVV&RKIガイドライン(2008))」で公表されたウイルス不活化試験方法は、汚染物質としてタンパク質(ウシ胎仔血清)の負荷を試験条件に加えていることが、特徴のひとつとしてあげられます。手指消毒剤のウイルス不活化効果を評価するための標準試験法として、欧州標準化委員会(CEN)が定めるEN14476や、米国試験・材料協会(ASTM)が定めるASTM E1052-96では、タンパク質の負荷は行われません。従って、DVV&RKIガイドライン(2008)は、その他の標準試験法と比べても、より実使用を想定した *in vitro* 試験方法であるといえます。また、DVV&RKIガイドライン(2008)では、ウイルスの構造(エンベロープの有無)に着目した指標ウイルスが定められており、エンベロープウイルスに対して有効であるときは「Limited virucidal activity(限定殺ウイルス活性)」を、ノンエンベロープウイルスに対しても有効であるときは「Virucidal activity(殺ウイルス活性)」を訴求できます。なお、それぞれの指標ウイルスに対して、ウイルス感染価($TCID_{50}$)で4.0Log_{10}以上の減少が認められた場合、その製剤はウイルスに対し有効であると判定されます。

- 「Limited virucidal activity」の指標ウイルス
  ワクシニアウイルス、ウシウイルス性下痢ウイルス(BVDV：HCV代替ウイルス)
- 「Virucidal activity」の指標ウイルス
  ポリオウイルス、アデノウイルス、パポバウイルス(SV40)、ワクシニアウイルス

6-2　ネコカリシウイルス（FCV）に対する *in vivo* における不活化効果[4)]：ASTM E1838-02

指先（指腹部）をネコカリシウイルスF-9（ノロウイルス代替ウイルス）で汚染し、**ウィル・ステラVジェル**を使用して、その不活化効果を評価しました。なお、米国試験・材料協会が定めるASTM E1838-02[注2]に準拠して試験を行いました。

<試験方法>

ネコカリシウイルス（以下、FCV）F-9 ATCC VR-782を供試ウイルスとして使用しました。FCVと負荷物質（ウシ血清アルブミン、トリプトン、ムチン）を混合したウイルス培養液を指先に塗布し、室温で20～30分間乾燥後、**ウィル・ステラVジェル**を30秒間作用させました。溶出液を用いてウイルスを回収し、その希釈液を細胞に接種して、ウイルス感染価（$TCID_{50}$）を測定しました。

<結　果>

結果を図1に示します。FCVで汚染させた指先においてウイルス不活化効果を評価した結果、**ウィル・ステラVジェル**は、30秒間の作用時間で、2.0Log_{10}以上のウイルス感染価の減少が認められました（感染価の減少率：99%以上）。

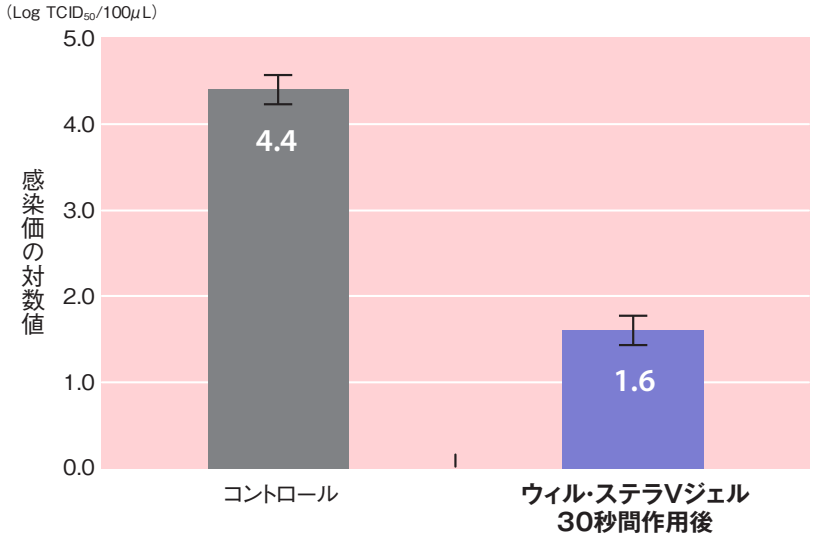

図1 ウィル・ステラVジェルのFCVに対する不活化効果
(mean±SE, n=30)

注2：ASTM International. 2002. E-1838-02. Standard test method for determining the virus-eliminating effectiveness of liquid hygienic handwash and handrub agents using the fingerpads of adult volunteers.
（成人ボランティアの指腹を用いた、衛生的液体手洗い・ハンドラブ剤のウイルス除去効果を判定するための標準試験法）

ASTM（American Society for Testing and Materials：米国試験・材料協会）が定めるASTM E1838-02は、手洗い剤や手指消毒剤のウイルス不活化効果を *in vivo*で評価するための標準試験方法であり、2009年に公開されたWHOガイドラインでも紹介されています。ASTM E1838-02では、供試ウイルスを指先の指腹部に塗布することから、フィンガーパッド法（fingerpad method）とも呼ばれています。また、2008年カナダ保健省（Health Canada）から公開された生体消毒薬ガイダンスの草案（Human-Use Antiseptic Drugs Draft Guidance）にも、標準試験法としてASTM E1838-02が採用されています。このガイダンスでは、手指消毒剤に対する要求事項として、30秒以内にウイルス感染価で2.0 Log_{10}減少させる能力が求められています。

7. ウィル・ステラVジェルの殺菌力

7-1　各種細菌に対する*in vitro*における殺菌力[5)]：Time-Kill 試験（ASTM E2315-03）

FDA-TFM（米国の医療用手指消毒製品暫定的最終基準）で、医療関連感染症の代表菌株として指定されている25菌株およびその他感染症原因菌（薬剤耐性菌を含む）に対する**ウィル・ステラVジェル**の殺菌力を評価しました。なお、試験は米国試験・材料協会が定めるASTM E2315-03に準じて行いました。

結果を表2および表3に示します。**ウィル・ステラVジェル**は15秒間の作用で試験した全ての細菌および真菌を5.0Log_{10}以上減少させました（減少率：99.999%以上）。

表2　ウィル・ステラVジェルの各種細菌・真菌に対する殺菌力（Time-Kill試験）

	試験菌株	作用時間	初期菌数 (CFU /mL)	対数減少値	減少率(%)
グラム陰性菌	アシネトバクター ヘモリティカス *Acinetobacter haemolyticus* ATCC 17906	15 秒	6.5×10^6	>5.8	>99.999
	バクテロイデス フラジリス *Bacteroides fragilis* ATCC 25285	15 秒	5.7×10^7	>5.8	>99.999
	インフルエンザ菌 *Haemophilus influenzae* ATCC 10211	15 秒	3.4×10^8	>7.5	>99.999
	エンテロバクター アエロゲネス *Enterobacter aerogenes* ATCC 13048	15 秒	2.4×10^8	>7.4	>99.999
	大腸菌 *Escherichia coli* ATCC 11229	15 秒	7.3×10^7	>6.9	>99.999
	大腸菌 *Escherichia coli* ATCC 25922	15 秒	3.9×10^7	>5.6	>99.999
	クレブシエラ オキシトカ *Klebsiella oxytoca* ATCC 43165	15 秒	2.4×10^8	>7.4	>99.999
	肺炎桿菌 *Klebsiella pneumoniae* ATCC 13883	15 秒	3.8×10^8	>7.6	>99.999
	緑膿菌 *Pseudomonas aeruginosa* ATCC 15442	15 秒	1.3×10^8	>7.1	>99.999
	緑膿菌 *Pseudomonas aeruginosa* ATCC 27853	15 秒	2.1×10^8	>7.3	>99.999
	プロテウス ミラビリス *Proteus mirabilis* ATCC 14153	15 秒	2.1×10^8	>7.3	>99.999
	セラチア菌 *Serratia marcescens* ATCC 14756	15 秒	4.1×10^8	>7.6	>99.999
グラム陽性菌	黄色ブドウ球菌 *Staphylococcus aureus* ATCC 6538	15 秒	1.3×10^7	>6.1	>99.999
	黄色ブドウ球菌 *Staphylococcus aureus* ATCC 29213	15 秒	1.8×10^7	>6.3	>99.999
	表皮ブドウ球菌 *Staphylococcus epidermidis* ATCC 12228	15 秒	1.3×10^7	>6.1	>99.999
	スタフィロコッカス ホミニス *Staphylococcus hominis* ATCC 700236	15 秒	3.8×10^7	>6.6	>99.999
	スタフィロコッカス ヘモリチカス *Staphylococcus haemolyticus* ATCC 29970	15 秒	2.4×10^7	>6.4	>99.999
	腐性ブドウ球菌 *Staphylococcus saprophyticus* ATCC 15305	15 秒	3.2×10^6	>5.5	>99.999
	ミクロコッカス ルテウス *Micrococcus luteus* ATCC 7468	15 秒	4.1×10^6	>5.6	>99.999
	化膿連鎖球菌 *Streptococcus pyogenes* ATCC 12344	15 秒	4.9×10^7	>6.7	>99.999
	エンテロコッカス フェカリス *Enterococcus faecalis* ATCC 29212	15 秒	2.9×10^7	>6.5	>99.999
	エンテロコッカス フェシウム *Enterococcus faecium* ATCC 6057	15 秒	1.8×10^8	>6.3	>99.999
	肺炎球菌 *Streptococcus pneumoniae* ATCC 33400	15 秒	1.1×10^8	>6.0	>99.999
真菌	カンジダ グラブラタ *Candida glabrata* ATCC 90030	15 秒	8.2×10^7	>5.9	>99.999
	カンジダ アルビカンス *Candida albicans* ATCC 10231	15 秒	8.6×10^7	>5.9	>99.999

表3　ウィル・ステラVジェルの各種細菌（25菌株以外）に対する殺菌力（Time-Kill試験）

	試験菌株	作用時間	初期菌数 (CFU /mL)	対数減少値	減少率(%)
グラム陰性菌	アシネトバクター バウマニ *Acinetobacter baumannii* ATCC 19606	15 秒	4.1×10^7	>6.6	>99.999
	多剤耐性緑膿菌（MDRP） Multi-drug-resistant *Pseudomonas aeruginosa* GTC 2017	15 秒	1.7×10^8	>7.2	>99.999
グラム陽性菌	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA） Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* ATCC 700698	15 秒	8.1×10^6	>5.9	>99.999
	バンコマイシン耐性腸球菌（VRE） Vancomycin-resistant *Enterococcus faecium* ATCC 51559	15 秒	8.9×10^6	>6.0	>99.999
	バンコマイシン耐性腸球菌（VRE） Vancomycin-resistant *Enterococcus faecalis* ATCC 51299	15 秒	1.8×10^7	>6.2	>99.999
	バンコマイシン耐性腸球菌（VRE） Vancomycin-resistant *Enterococcus faecalis* ATCC 51575	15 秒	1.0×10^7	>6.0	>99.999

7-2　各種細菌に対する *in vitro* における殺菌力：prEN13727[6)]

欧州標準化委員会（CEN）が定める欧州規格prEN13727に準拠した *in vitro* 試験により、試験管内で実使用を想定した「清潔」・「不潔」条件下における**ウィル・ステラVジェル**の殺菌力を評価しました。prEN13727の要求事項として、試験した全ての菌に対して、試験前後の菌数減少が対数減少値で5.0Log_{10}以上（減少率:99.999%以上）であることが求められます。

<試験方法>

試験菌液1mL、負荷物質1mLの混合液に**ウィル・ステラVジェル**8mLを加え、20℃に保持しながら15秒間作用させました。この反応液を不活化剤と混和して不活化した後、培養し、生残菌数を求め、対数減少値を測定しました。「清潔」条件の負荷物質には、0.03%アルブミンを用い、「不潔」条件では0.3%ヒツジ赤血球および0.3%アルブミンを用いました。

<結　果>

結果を表4に示します。**ウィル・ステラVジェル**は、prEN13727のいずれの条件下（清潔/不潔）でも、試験した全ての細菌に対して、15秒間の作用で有効（対数減少値 ≧ 5.0）であり、prEN13727の要求事項を満たしました。

表4　ウィル・ステラVジェルの各種細菌に対する殺菌力（prEN13727）

供 試 菌	初期菌数 (CFU/mL)	清潔条件		不潔条件	
		対数減少値	減少率 (%)	対数減少値	減少率 (%)
緑膿菌 *Pseudomonas aeruginosa* ATCC 15442	4.9×10^8	>5.5	>99.999	>5.5	>99.999
大腸菌 *Escherichia coli* ATCC 10536 （NCTC10538代替）	4.3×10^8	>5.5	>99.999	>5.5	>99.999
黄色ブドウ球菌 *Staphylococcus aureus* ATCC 6538	2.8×10^8	>5.3	>99.999	>5.3	>99.999
エンテロコッカス・ヒラエ *Enterococcus hirae* ATCC 10541	4.5×10^8	>5.5	>99.999	>5.5	>99.999

7-3　通過菌汚染モデルに対する *in vivo* における殺菌力[7)]：EN1500:2013

欧州標準化委員会（CEN）が定める欧州規格EN1500：2013に基づき、通過菌の汚染モデルとして一定菌数の大腸菌で汚染させた手指に対して、**ウィル・ステラVジェル**を使用し、その殺菌力を評価しました。なお、欧州では、医療施設で衛生的手指消毒（Hygienic handrub）に使用する手指消毒剤は、EN1500：2013の要求事項を満たす必要があります。

<試験方法>

試験菌液に手を中ほどまで浸し、実験的に手指を汚染させました。試験製剤として**ウィル・ステラVジェル**を、対照薬剤としてイソプロパノール（60vol%）を用いた手指消毒の前後で、手の指先から検出される菌数を測定しました。また、その試験計画にはクロスオーバーデザインを用いました。

表５　EN1500：2013の試験条件

試　験　菌	*Escherichia coli* K12 NCTC 10538		
被 験 者 数	18 人		
試 験 条 件	試験製剤	ウィル・ステラ V ジェル	対照薬剤 60vol% イソプロパノール
	使用量	約 3 mL × 1 回	3 mL × 2 回
	接触時間	15 秒	60 秒
評 価 方 法	非劣性試験 （各被験者毎に対照薬剤の対数減少値から試験製剤の対数減少値を引いた値を求め、その値を用いて Hodges-Lehmann 97.5% 上側信頼限界値を求める）		
要 求 事 項	試験製剤が対照薬剤と比較して、劣っていないこと （Hodges-Lehmann 97.5%上側信頼限界値が0.6（規定値）よりも小さいこと）		

<結　果>

結果を図2に示します。Hodges-Lehmann97.5%上側信頼限界値は0.485であり、0.6より小さい値になりました。このことにより、**ウィル・ステラVジェル**は対照薬剤よりも劣っておらず、EN1500：2013の要求事項を満たすことが判明しました。

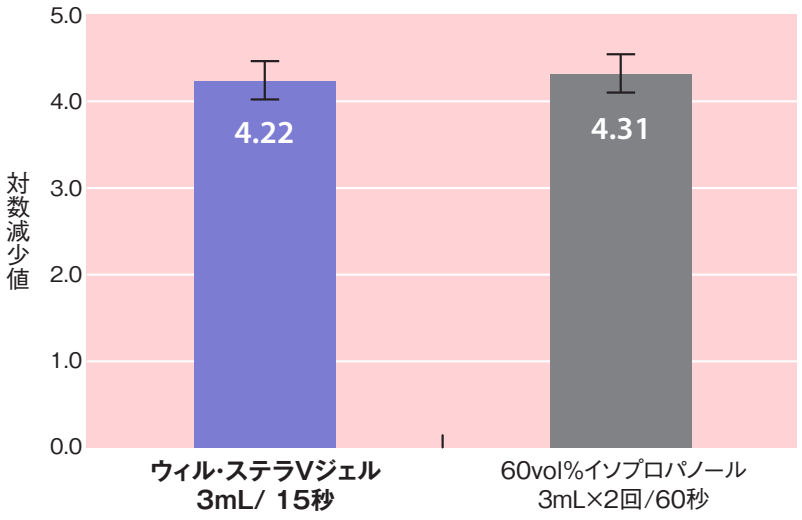

図2　ウィル・ステラVジェルの通過菌汚染モデルに対する殺菌力（EN1500：2013）

mean ± SE, n =18,　Hodges-Lehmann 97.5%上側信頼限界値 ＝ 0.485（<0.6）

8. ウィル・ステラVジェルの皮ふに及ぼす影響

8-1　ウィル・ステラVジェルの保湿効果[8)]

ウィル・ステラVジェルを塗布した皮ふの保湿効果について、角層水負荷試験により角層水分保持能を評価しました。

<試験方法>

健常者（11人）の前腕部内側の手首から屈側部の中間部位に、1cm四方の試験部位を5箇所、マジックペンで印をつけました（間隔1cmずつあける）。その後、80μLの蒸留水を試験部位に滴下し、30秒間放置し水負荷させました。この水をペーパータオルでふきとり、ふきとった直後、30秒、60秒、90秒および120秒後の静電容量をCorneometer CM825（Courage+Khazaka社製）で測定しました。

各試験液（**ウィル・ステラVジェル**および他社品A、BおよびC）を綿棒に十分量含ませ試験部位に塗布しました。この操作を5分間隔で12回繰り返し、コントロールは、何も塗布しないものとしました。最終塗布の30分後に試験部位を洗浄し、再度水負荷させ、各試験部位ごとに、同様にふきとった直後、30秒、60秒、90秒および120秒後の静電容量を測定しました。

角層水分保持能の変化率は以下の式で求めました。

角層水分保持能(%) ＝ A／B×100

A：水負荷から30秒、60秒、90秒および120秒後の静電容量の平均

B：水負荷直後（0秒後）の静電容量

角層水分保持能の変化率(%) ＝ D／C×100

C：試料塗布前の角層水分保持能

D：試料塗布後の角層水分保持能

<結　果>

結果を図3に示します。**ウィル・ステラVジェル**を連続塗布すると、何も塗布していないコントロールや他社品BおよびCよりも角層水分保持能が有意（$P<0.01$）に増加しました。

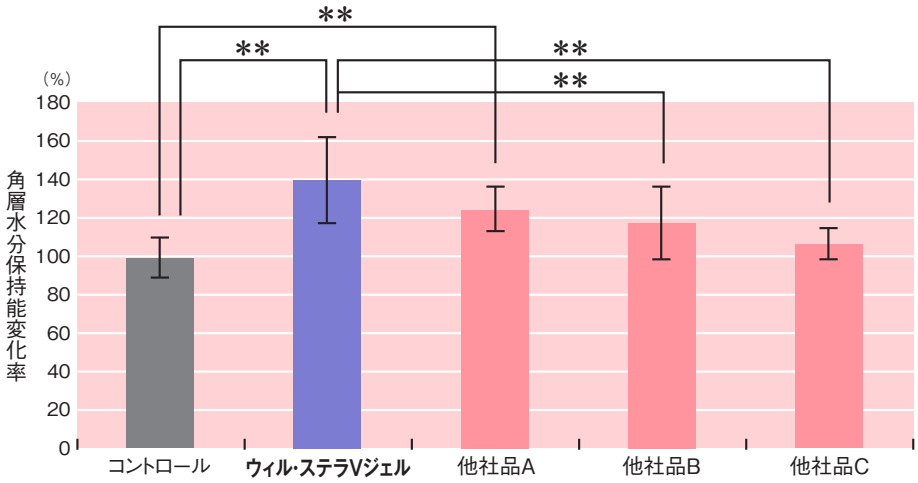

図3　各種手指消毒剤による角層水分保持能の変化率

多重比較検定　**：$P<0.01$　(mean ± SD, n=11)

8-2　ウィル・ステラVジェル使用前後の皮ふの状態[9)]

ウィル・ステラVジェルを1日10回塗布した対象者の皮ふの状態を試験前後においてマイクロスコープを用いて観察しました。

<試験方法>

まず、健常者（10人）の前腕部内側の手首から屈側部の中間部位を軽く水で流し、30分間安静にしてもらった後、皮ふの状態をマイクロスコープ（VHX-900 Digital Microscope (KEYENCE)）で観察しました。その後、3cm四方の印をつけ、各試験液（**ウィル・ステラVジェル**および消毒用エタノール）を試験部位に1滴落とし、逆の手の指で乾燥するまで塗り広げました。サンプルの塗布は10回繰り返しました。塗布後、軽く水で洗い流し、30分間安静にした後、再びマイクロスコープで観察を行いました。

<結　果>

結果を図4に示します。消毒用エタノールでは使用後に皮ふのキメが大幅に低下している対象者（10人中5人）が確認されたのに対し、**ウィル・ステラVジェル**を使用した全ての対象者において変化はみられませんでした。

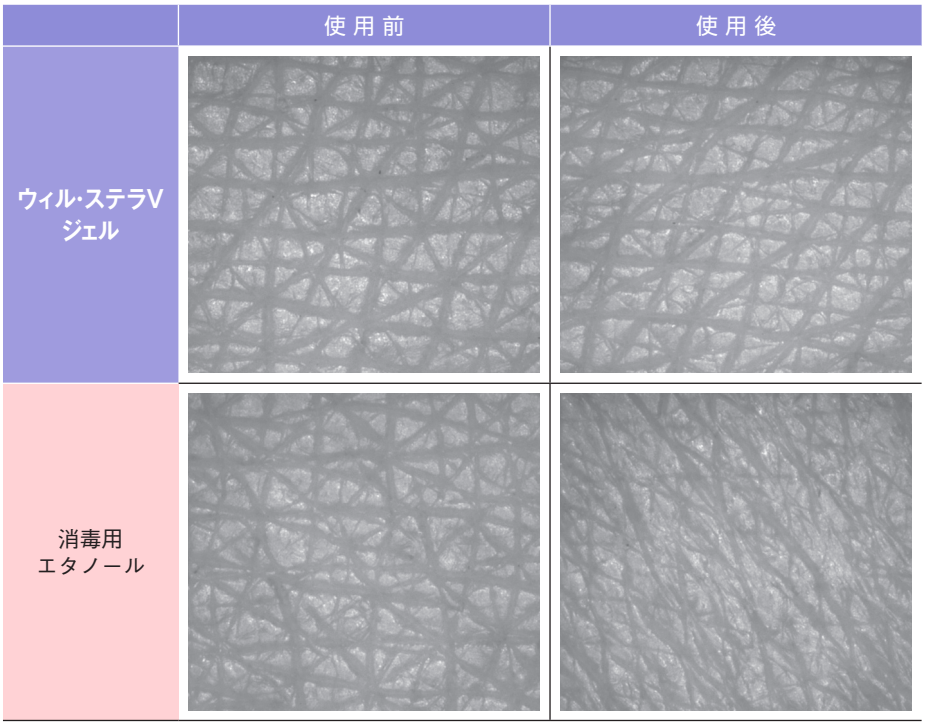

図4　各試験液使用前後のマイクロスコープ画像

● 文献

1)　World Health Organization. WHO Guidelines on Hand Hygiene in Health Care. (2009)
2)　社内資料
3)　Test report on effectiveness of the hand disinfectant. MIKROLAB GmbH.
4)　社内資料
5)　社内資料
6)　社内資料
7)　社内資料
8)　社内資料
9)　社内資料

速乾性アルコールジェル〈第3類医薬品〉

ウィル・ステラVジェル

Drug Information

2013年12月作成の添付文書より作成

商品名	ウィル・ステラVジェル	薬効分類番号	2615	製造販売元	サラヤ株式会社

使用上の注意

してはいけないこと（守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなる）

次の部位には使用しないこと

(1)損傷のある皮ふ。

(2)目の周囲、粘膜等。

相談すること

1. 次の人は使用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

(1)医師の治療を受けている人。

(2)薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。

2. 使用後、次の症状が現れた場合は副作用の可能性があるので、直ちに使用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

関係部位	症　状
皮ふ	発疹・発赤、かゆみ

効能 又は 効果

手指・皮ふの消毒

用法 及び 用量

適量を手に取り、指先までムラなく乾くまで擦り込む。

用法 及び 用量に関連する注意

(1) 小児に使用させる場合には、保護者の指導監督のもとに使用させること。

(2) 目に入らないように注意すること。万一、目に入った場合には、すぐに水又はぬるま湯で洗うこと。
なお、症状が重い場合には、眼科医の診療を受けること。

(3) 外用にのみ使用すること。

(4) 血液や汚物等が付着している場合には、石けんでよく洗浄後、水分を除去してから使用すること。

成分 及び 分量

ウィル・ステラVジェルは、有効成分としてエタノール（C_2H_6O）76.9～81.4vol%、
添加物としてグリセリン、疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロース、ミリスチン酸イソプロピル、アラントイン、リン酸を含有する。

保管 及び 取扱い上の注意

(1) 直射日光の当たらない涼しい所に密栓し保管すること。

(2) 小児や認知症の方の手の届かない所に保管すること。

(3) 他の容器に入れ替えないこと（誤用の原因になったり品質が変わる。）。

(4) 取扱う場合、換気を十分行うこと。

(5) 火気に近づけないこと。

(6) 使用期限が過ぎた製品は、使用しないこと。

(7) 本剤はアルコールを含有しているため、床などの塗装面や衣服などについたりすると変色する場合があるので注意すること。

(8) ノズルの先が詰まる場合には、詰まりを取り除いてから使用すること。

(9) 初期消火の場合、大量の水または消火器で消火すること。

包　　装

60mL, 250mL, 500mL, 600mL

本製品は一般用医薬品（第3類医薬品）です。　● ご使用の際は、ラベルに記載の説明文書をよくお読みください。

品　名	内容量 / 規 格	1梱入数	商品コード	JANコード
ウィル・ステラVジェル	60mL	48	42338	49-87696-42338-1
	250mLポンプ付	10	42330	49-87696-42330-5
	500mL扁平ポンプ付	10	42331	49-87696-42331-2
	600mLディスペンサー用	6	42093	49-87696-42093-9

■ 製品は改良のため、予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。　■ 写真及び印刷の仕上がり上、現品と色合いが若干異なることがあります。　■ 記載内容は2023年2月現在のものです。

サラヤ株式会社

〒546-0013 大阪市東住吉区湯里2-2-8

https://www.saraya.com/

お問い合わせ先　TEL.06-6797-2525

学術的なお問い合わせ先　学術部 TEL.06-4706-3938

（受付時間：平日 9:00～18:00）